

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】
『知』自ら、問題意識をもって追究し、主体的に学ぶ力を育てます。
『徳』互いのよさや違いを認め合い、思いやりの心を育てます。
『体』健康な生活を実践し、体力を高め、心身ともにたくましく生きる力を育てます。
『公』「まち」と進んでかかわり、「まち」を愛する心を育てます。
『開』多様な考えを尊重し、新たな価値に気付いて、共に行動しようとする子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<問題発見・解決能力>
<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

- (個別) ◆物事や他者に興味をもつ力 ◆自分の心・体を大切にすること
(低) ◆解決策を実行する力 ◆結果から学ぶ意識
◆身近な事象に積極的に関わる態度 ◆主体性・積極性
(中) ◆現実と比較する力 ◆問題を発見する力
◆社会生活の中での協調性 ◆自分らしさを発揮しようとする姿勢
(高) ◆問題解決の過程を振り返る力 ◆協働的に解決策を見いだし実行する能力
◆地域に貢献する姿勢 ◆自己肯定感

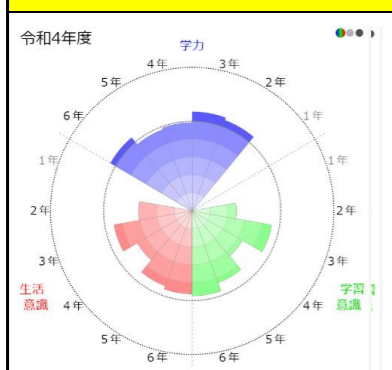
中期取組目標

- 児童一人ひとりの生き方を切り拓く学びを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。
・児童が主体的に取り組む授業の展開を図るとともに、進んで表現できる子の育成に努めます。
・家庭・地域とも連携し、一人ひとりが自己肯定感をもって、安心して安全な学校生活を送れるようにします。
・体力の向上とともに、健康な心身をつくるための基本的な生活習慣が形成できるようにします。
・まちと進んでかかわり、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
・児童理解に努め、子ども一人ひとりを大切にしたい指導力の向上を図ります。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善), 具体的取組 (各教科、育成を目指す資質・能力を明確にして授業を計画し、誰もが「わかる」「できる」「楽しい」学びを目指す。)

学力向上に関わる本校の状況



・学力面でみると、おおむね市の平均と同程度か、上回っている。特に算数では、すべての学年で市の平均と同程度か、それを上回る結果となっている。ここから、日頃の基礎基本の定着を大切に授業の成果が現れていることが分かる。一方で、学習意識が、市の平均より低い。算数では、「よりよい答えを確かめたり、求め方をふり返ってよりよい方法がないかを考えたりする」が若干低い。また理科の「観察、実験を通して問題を解決しようとしている」についてが低く、音楽「思いをもって表現しようとしている」・図工「自分が表現したいことを、形や色を工夫して表そうとしている」・体育「課題解決のために考えたことを、友達と伝え合っている」について低い。外国語の「進んで人と話したり話を聞いたりしたいと思いませんか。」で、平均より低い。ここから、関わり合い、高め合い学びを深めていこうとする意識が低く、大きな課題であることが分かる。

今年度の目標

言語活動を大切にし、子どもたちが主体的に交流し、伝え合い、関わり合う学びから学習が深まり、さらなる学びへとつなげる力を伸ばす。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①行事や各教科領域等で、子どもたちが自分の思いや考えを進んで出し合い、認め合い、つなぐ場を設定する。ペアワークやグループでの活動を弾力的に取り入れるとともに、名前マグネットなどの具体物の操作活動を取り入れた話し合い活動や、話型に基づいた話し合い活動を行って、適切な話し方に沿った活発な交流をめざす。また、朝の会のスピーチや計画的な読書活動を行い、朝学習の時間を効果的に活用する。
②毎時間の授業で、学習課題をはっきりと提示し、学習の流れがつかみやすくなるように板書を工夫し、だれも見通しをもち、分かりやすく意欲的に学習できるようにする。また、朝学習の時間を計画的に運用し、プリントやドリルなどを使いながら、効率的に基礎・基本の定着を図っていく。
③iPadの活用を図り、単なる探索ツールや個の学習で終わらず、画面共有や共有ノート、シンキングツールなどを効果的に使い、学び合いの手段の一つとして利用する。それにより、資料や事実を分析的にとらえたり、互いの考えを比較、関連させたりして、焦点化した話し合いにつなげ、深い学び合いが生まれるようにする。

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育), 具体的取組 (1. たてわり活動の異学年による活動や交流をより充実させることで相手を思いやる心を育み、誰もが自己有用感を感じられるようにする。)

豊かな心に関わる本校の状況

R4年度学力・学習状況調査の「自分のことが好きですか」という質問に対しては、学年によっては、している、どちらかといえばしている、と答えた児童が市の平均と同程度か学年によっては上回っている。近年課題となっていた自己肯定感が低い、という状況は、少しずつではあるが改善傾向にあると考える。しかし、「相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしていますか」という質問に対して、している、どちらかといえばしている、と答えた児童が、5年生以外は市の平均より著しく低く、相手の気持ちを考えるということを意識している児童が少ないことがわかった。本校の子どもたちの傾向を話し合った教職員の実感から、相手を思いやる行動をとる場面が見えにくい、相手に対する関心をもちにくい、という実感があることも分かっている。

※R4年度学力・学習状況調査結果 5年4年の例



今年度の目標

たてわりや学年学級それぞれの集団の中で、よりよく関わり、自他のよさを見つけれらるような場面を設定し、一人ひとりが自己有用感を感じられるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①たてわり活動では、定期的なたてわり遊びを行い、異学年の子ども同士が顔と名前を互いに覚え、よりよく関わるような場面を設定する。その上で、相手を思いやる気持ちをもって接することでグループの仲が深まる体験を積み重ねられるようにする。
・体力テスト
・たてわり遊び
・たてわり清掃
②昨年度に引き続き、重点研究として道徳科の研究を行う。学年だけでなく、学年をこえたブロックで授業を見合うことで、授業改善を図る。
③学校の全教育活動を通して、自分の思いや考えを表現し、それを認め合う場を設定する。係活動、委員会活動等の活動では、活動する姿を見て教師が価値づけをし、やってよかった、という思いをもつことができるようにする。また、100周年事業に関連した学習の中で、まちの人との関わりを意識し、まちと共に成長している自分を自覚するような取り組みを行う。

上半期

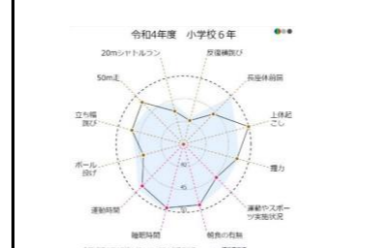
下半期

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育), 具体的取組 (1. 校医との連携を図り、歯・口の健康づくりを推進し、自らの健康についての意識を高める。)

健やかな体に関わる本校の状況

①歯科校医と連携し、感染症対策をしながら、定期健康診断・臨時健康診断を実施した。アンケート調査に加えて、歯磨き検査と、必要な児童には歯磨き指導を行うなど、健康診断の充実を図った。R4年度はむし歯のない者の率が79パーセントだった。また、家族ともに行う歯みがき検査や歯みがきカレンダーを行い、地域全体の口腔内の衛生意識の向上に努めている。全校児童がたてわり活動の中で、学校保健委員会に参加し、健康への意識を高めた。
②体力テストはコロナ禍もあり、3年前は未実施。一昨年度は一部実施。昨年度は全学年に実施された。経年の変化は確認しづらいが、全国・横浜市平均と比べても、運動に親しむ機会や時間が少なく、実施したテストの結果も低いものになっている。運動に取り組みめる場や機会が少ない現状がある。



③家庭の協力と、本校の取り組みの積み重ねで食に関する意識が比較的に高い。朝ごはんを必ず食べる児童 86.6% (R4年度生活・学習意識調査より)
・肥満傾向の児童 2.9% (令和4年度内科検診(栄養状態)結果)
給食残食率: 主食0%、主菜10%、副菜11%、牛乳8%、デザート7% (令和4年度栄養報告書)

今年度の目標

自分の体や健康について興味をもち、健康意識を高め、進んで活動したり運動したりする習慣をつける。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①歯科校医と連携し、健康診断前に保護者へ問診を行う形で健康相談を実施し、定期健康診断の充実を図る。さらに、今年度は生え変わりで歯磨きが難しくなる4年生を対象に横浜市歯科衛生士によるブラッシング指導を行う。引き続き、PTAの協力のもと、歯みがき手帳の作成、家族歯みがきカレンダーを実施する。
②運動に親しむ機会や場所を作る。休み時間に校庭で、ボール遊びや長縄をできるようにする。委員会活動を中心に、また、運動集会を企画するなど、安全に楽しく運動に親しめる活動を推進する。
③教科における取組として、4年生は、体育科(保健領域)、5、6年生は家庭科において栄養分野について学習する。給食時間等の取組として、食に関するおたよりを毎日各クラスに配布する。また、栄養に関するTV放送をしたり、委員会児童による啓蒙活動を行ったりする。さらに、今年度より毎月、各学年で食育教材の「バランスイナワーク」に取り組む。

上半期

下半期